

(様式1)

令和元年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立豎川中学校
校長名	織部 明広

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から (平均正答率は、別表参照)

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">1 学年は全国平均より国語総合が+1.0、数学総合が+0.1 上回っている。2 学年は5教科すべてが全国平均を上回っている。3 学年は国語総合、社会総合、数学総合、英語総合の正答率が全国平均を上回っている。特に数学は全国より+9.8 上回り AB 層が 67% となった。社会においては、経年変化での伸び率が昨年度より 6.3% 上昇した。さらに、全教科で AB 層が 4 割を超え、国語・数学・英語では 5 割 5 分以上となった。	<ul style="list-style-type: none">1 学年は社会総合が-1.6P 理科総合が-2.4P 全国平均より下回っている。社会は資料活用の技能、理科は観察・実験の技能を高めていくことが課題である。<u>学年末までに全国平均まで引き上げ、DE 層を 3 割台となるよう引き上げる。</u>2 学年は理科総合が全国平均を+0.1P 上回っているが昨年度より-1.8P 下回っている。観察・実験の技能が全国平均より-6.3 下回り、改善していくことが課題である。<u>理科の経年変化の伸び率を学年末までに+3 引き上げ DE 層を 4 割弱に留めていく。</u>3 学年は理科総合が-2.1P 全国平均より下回っている。観察・実験の技能が全国平均より-7.7P 下回り、改善していくことが課題である。<u>理科・社会・英語の DE 層を卒業期までに 3 割弱にしていく。</u>

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">第1 学年は、自己肯定感における自己評価・受容が比較的良く、自分への好意や満足感、認められる気持ちが強い。第2 学年は昨年より、他者受容感と自己効力感が伸び他者理解が深まり、学習や思考を楽しむ気持ちが強まった。第3 学年は、昨年度より他者受容感が高まりつた。また、自己肯定感、自己効力感、内発的動機づけの項目も区平均値を上回り、自分が頼りにされ、自信をもって物事に取り組み、学習や思考を楽しむ傾向が強い。	<ul style="list-style-type: none">第1 学年は、全ての項目で、区平均値より若干下回っている。特に、内発的動機づけが弱い。今後、学習や思考を楽しむ気持ちや好奇心を引き出す授業改善が求められる。第2 学年は、自己肯定感における自己主張・決定に弱さが見られるため、<u>日頃から計画性をもって自分の可能性を信じられる自信をみにつけさせたい。</u>第3 学年は、他者受容感を高め、他者を支える気持ちをみにつけさせたい。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">数学での学び合い活動を始めて3年目になるが、目の行き届いた指導を生徒が緊張感を保ったまま維持できるようになった。緊張感の中でも質問しやすい雰囲気ができ、少しのつまづきをすぐに解決することができた。	<ul style="list-style-type: none">他教科でも授業の中で教え合いの時間を確保し、生徒主体の授業を進められるよう改善を図っていく。家庭学習を提出していないのは特定の生徒で、定期考査や区の学力調査の結果や授業の様子

<ul style="list-style-type: none"> ・全学年で家庭学習帳を毎日行う取り組みで、1年間の提出率が80%を越える生徒がほとんどである。家庭学習の習慣が身に付いている。 ・定期考査の結果より、各教科で日頃から課題に熱心に取り組む基礎的な内容が定着しているようにうかがえる。 	<p>にも影響が表れている。<u>個別に対応し、家庭学習の定着を図ることが課題である。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査等での狭い範囲での内容は事前に学習し成果に表れているが、区・都・全国の学力調査のような広範囲で発展的な内容に対しては課題が残る。<u>日頃の授業での内容を確実に定着させて次の内容に進むよう指導していく。</u>
--	--

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 各種コンテストに対して、学校全体で組織的に取り組んでいく。

年間を通して、漢字コンテスト・数学コンテスト・英文コンテスト・新聞コンテスト・地理コンテストの5つのコンテストを行う。学校行事として教科を越えて、学校として事前の学習指導、採点を行い、優秀者を表彰し意欲の向上に努めていく。各種コンテストでの取り組み後も、学力が定着するように各教科の授業の中で定期的に振り返り学習を行っていく。

(2) 教員の授業力向上に向けての取り組み

校内研修で区外の指導教諭の模範授業の報告会や職員会議のミニ研修で指導の工夫・評価・評定について管理職より資料提示し、研修を深める。管理職による定期的な授業参観による指導助言も実施する。年に2回、教員同士で授業を見学する互見週間を行い、お互いの授業を評価・助言していくことで、教員の授業力の向上を図る。

(3) 理科の授業の内容を深める

昨年度区学力向上マネジメント推進校として理科に重点を置き、授業観察を管理職と理科の講師によって行い、指導・助言を通して授業改善に取り組んだ。今年度は改善した授業を引き続き維持・修正していくことに努めていく。

観察・実験をもとに話し合いを充実させ ICT 等を活用し、考え・解る理科を目指していく。理科への興味、関心を高めるために、日常生活と理科の関わりを多く取り上げていく。昨年度は区の学力調査の結果を個別に分析し、個々の生徒の課題にあった復習プリントを作成し、長期休業中に取り組みさせた。今年度は個別対策ではないが、昨年度の分析から苦手分野を絞った課題を作成し定期的に取り組ませている。このように、基礎学力の定着に向け、生徒が学習内容に興味関心をもち、自らの力で考え、まとめる力をつけられるように指導していく。そして、苦手分野を明確にし、日々の授業の中で繰り返し復習していくことを徹底し学力の定着を図っていく。

3 「令和2年度 墨田区学習状況調査」における目標

- ・第1学年では、学年末までに、理科における実験・観察の技能を高め、無回答を減らし、D・E層をC層に引き上げ3割強を目標値とする。また、社会においても、D・E層を3割弱の目標値とする。
- ・第2学年では、学年末までに、実験・観察の技能をたかめ、実験を説明する力を身に付け、無回答を減らし、C層に引き上げ、D・E層を3割弱の目標値とする。
- ・第3学年では、第1・2年生同様に、理科における実験・観察の技能を高め、事象について調べ実験を考え説明できるようにして、無回答を減らし、D・E層を3割強の目標値とする。また、社会において、江戸時代についての政治社会について資料活用力をたかめ、無回答を減らしD・E層を3割弱の目標値としていく。さらに、英語において、場面に応じて書く英作文を対話の流れに合った英文を書けるようにし、無回答を減らしD・E層を3割に留めることを目標値とする。